



国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

資料 6

「社会共創」の取組について

— 前回のアドバイザリーボードからの進捗・最新状況報告 —

研究公正・業務推進部
研究公正・社会共創課

co-creation@amed.go.jp

AMEDの「社会共創」



AMED「社会共創」ウェブサイト：

<https://www.amed.go.jp/socialcocreation/index.html>

AMEDの理念

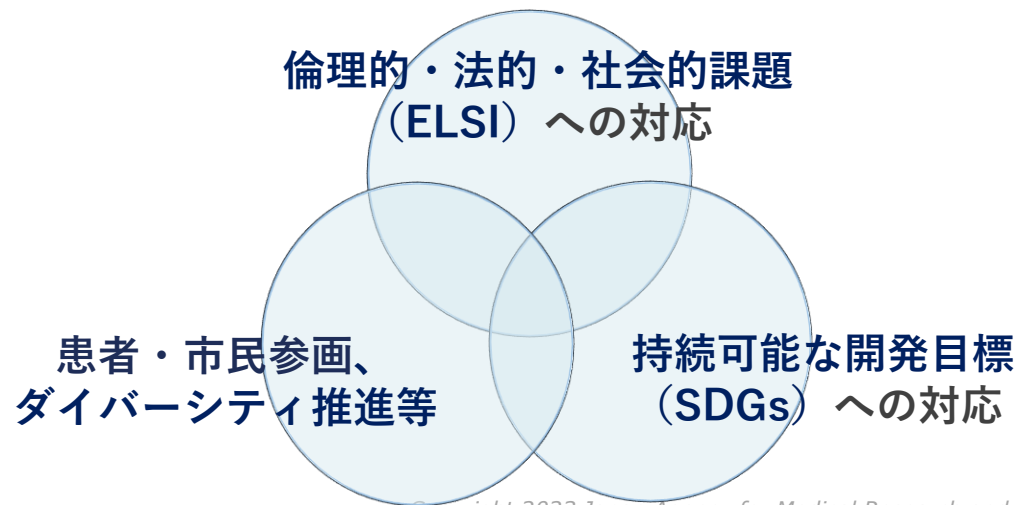
AMEDは、医療分野の研究開発及びその環境整備の中核的な役割を担い、「医療分野の研究成果を一刻も早く実用化し、患者さんやご家族の元にお届けすること」を目指します。

社会の真のニーズを満たす

社会との対話や協働を通じて、
国民の安全・安心を確保し、理解・信頼を得ながら

AMEDは、「社会共創」の取組として、

- ① 医療研究開発にともない生じる倫理的・法的・社会的課題（ELSI）への対応
 - ② 多様な幸せ（well-being）を実現するためのダイバーシティ推進
 - ③ Society 5.0 における医療研究開発のための持続可能な開発目標（SDGs）への対応
- を、組織として推進しています。



医療研究開発
の成果を
社会と共に創る

AMEDの「社会共創」

医療研究開発
によって
社会を共に創る

前回（R4.12）の アドバイザリーボードにおける主なご意見



1. 患者・市民に対するPPIの取組に必要な研修機会の提供

- 患者・市民からの意見を聴取、もしくは計画の立案段階から参画いただくには、医療に関する一定の知識が必要となる。AMED PPIガイドブックやEUPATIの翻訳等のツール・教材に加え、関係機関と連携しての組織化や仕組みの構築や、どのように理解したらいいのか等を伝える取組を推進する必要がある。

2. 医療研究開発へのPPI普及に向けた、研究者—患者・市民間の共通言語の模索、患者の立場からの意見出し

- AMEDの研究開発へのPPIにおいて、患者・市民が意見を言うためには、医療の基本的なことを学び、共通言語を増やした上で、かつ、患者の立場を維持して意見を言うことが必要になる。
- 今は医療に関心がなくても、医療の基本的なことを知り、自分たち一般市民にも意見を言う場があるとわかるとPPIは更に進むと思われる。多くの国民が学ぶことができる場作りが必要である。

3. 市民全体に医療研究開発に対する様々な考え方や重要性を知ってもらう機会の提供

- 研究者の方とさまざまな患者会が対面で交流できるような場をいただければ、どのようなニーズがあるのかということも（患者会から）研究者の皆さまにお伝えできる。
- 「社会共創」推進の1番の目的は、市民全体に医療研究開発に対する様々な考え方や重要性等を知っていただくことである。広く一般的にある病気の方々には興味を持ってもらいづらい。市民の方に伝わるよう、様々な方法を検討いただきたい。

4. 「社会共創」（ELSI、PPI、ダイバーシティ推進、SDGs等）の更なる推進

- 医療を進めていく上では、正確な医療の情報が医療人と医療を利用する患者様に伝わることは非常に重要であるため、ぜひPPIの推進を大切にしていきたい。また、SDGsも重要な課題であるため、ぜひ取組を推進していきたい。

取組 1. 研修機会等の提供

患者・市民に対するPPIの取組に必要な研修機会の提供

- 患者・市民からの意見を聴取、もしくは計画の立案段階から参画いただくには、医療に関する一定の知識が必要となる。AMED PPIガイドブックやEUPATIの翻訳等のツール・教材に加え、関係機関と連携しての組織化や仕組みの構築や、どのように理解したらいいのか等を伝える取組を推進する必要がある。

■ 研修教材の作成・公開

時期	事業名	内容
H31	運営費交付金	患者・市民参画ガイドブック
R3	臨床研究・治験推進研究事業	「研究への患者・市民参画」(動画) https://www.amed.go.jp/ppi/teiginado.html
R5 NEW	臨床研究・治験推進研究事業	はじめて学ぶ「研究への患者・市民参画」(e-learning) https://www.icrweb.jp/course/list.php#a102 https://www.amed.go.jp/ppi/learning.html

- これまで、PPIガイドブックや動画教材等を通じてPPIの取組に関する啓発活動を展開
- 令和5年10月には、研究班がPPIに関するeラーニングを作成し、ICR臨床研究ウェブサイト内に講座として開設

■ 取組事例の紹介 (<https://www.amed.go.jp/ppi/ppipractice.html>)

時期	領域	内容
H30	難病	・市民と築く患者レジストリ 視覚聴覚二重障害を診る ・市民と進める難病研究 慢性活動性EBウイルス感染症治療への道
H31	全般	(患者・市民参画ガイドブック：13事例掲載)
R4	成果展開	医師と患者が同じ目線で考える「日常を取り戻す」ための医療～半月板損傷の新たな治療方法導入に向けたPPI～
	革新がん	治療選択に向けた言葉の架け橋づくりで、がん患者にQOL向上をもたらす～治療と患者側が望む生き方との両立を目指したPPI～
R5 NEW	精神神経	精神疾患研究におけるPPI活動

- AMED事業における取組事例について、ガイドブック掲載の13事例の他、研究者へのインタビューを通じて実際のPPI事例やPPIを通じて得られるもの等の具体例をウェブサイトにて紹介
- 本年度は、左記事例の他に3事例の計4例のインタビューを作成・公開予定。来年度以降も継続し、充実化させる予定。

(参考)

「研究への患者・市民参画（PPI）」eラーニング教材



▶ AMED臨床研究・治験推進研究事業 分担課題「治験・臨床研究における患者・市民参画を推進する手法の確立」（分担代表：東京大学・武藤香織教授）において、「研究への患者・市民参画（PPI）」eラーニング教材を作成し、本年度公開。
（AMEDウェブサイト「PPIについて学ぶ」 <https://www.amed.go.jp/ppi/learning.html>）

はじめて学ぶ「研究への患者・市民参画」（本年10月17日公開）

トップ > 研究への患者・市民参画 (PPI) > PPIについて学ぶ

研究への患者・市民参画 (PPI)

PPIについて学ぶ

「研究への患者・市民参画（PPI）」eラーニング

このeラーニングでは、研究への患者・市民参画（PPI：Patient and Public Involvement）について初めて学ぶ人が、PPIの考え方やPPI活動をする上で必要になる基本的知識、研究のさまざまな段階で行われるより具体的なPPI活動に関する知識、PPI活動でのコミュニケーションの方法やこれらの注意点について学ぶことができます。

はじめて学ぶ「研究への患者・市民参画」（2023年10月17日公開）

制作：AMED臨床研究・治験推進研究事業内の分担課題「治験・臨床研究における患者・市民参画を推進する手法の確立」（分担代表：東京大学・武藤香織教授）
運営：一般社団法人PPI Japan

コンテンツ

- PPIとはなにか
- PPIのルール①～基本的な留意点～
- PPIのルール②～ちょっと複雑な留意点～
- PPIでのコミュニケーション
- 研究とは何か①～診療と研究の違い～
- 研究とは何か②～研究の長い道のり～
- 実践のヒント～ICのPPI～
- PPIの10か条

利用方法等

1. ICR臨床研究入門・ICRwebにアクセスし、ユーザー登録（無料）を行う。
2. ログイン後、講座「はじめて学ぶ「研究への患者・市民参画」」にアクセスする。
3. 必要に応じて修了証の発行が可能です（有料）。

ポイント

- ✓ 研究へのPPIについて初めて学ぶ人が、
 - ・ PPIの考え方やPPI活動をする上で必要になる基本的知識
 - ・ 研究のさまざまな段階で行われるより具体的なPPI活動に関する知識
 - ・ PPI活動でのコミュニケーションの方法やこれらの注意点について学ぶことができるeラーニングを開設
- ✓ 「ICR臨床研究入門」のユーザー登録を行い、計8コマを受講可能（無料）。
- ✓ 必要に応じて、受講に関する修了証の発行が可能（有料）

制作：AMED臨床研究・治験推進研究事業
分担課題「治験・臨床研究における患者・市民参画を推進する手法の確立」
（分担代表：東京大学・武藤香織教授）

運営：一般社団法人 PPI Japan

(参考) P P I に関する取組紹介



- AMED事業における、P P I に関する取組事例を、機構ウェブサイトで公開。これまでに5事例紹介。本年度は、本年公開した1事例に加え、4事例を公開予定。
(機構ウェブサイト <https://www.amed.go.jp/ppi/ppipractice.html>)

AMED-PPIインタビュー vol.3

患者や家族、支援者との
共同創造で描く、
精神疾患回復の
未来像

リハビリ支援のあり方を
問い直す医療従事者用ガイド
作成に向けたPPI



※画像をクリックすると動画が再生されます。

AMED-PPIインタビュー vol.2

治療選択に向けた
言葉の架け橋づくりで、
がん患者にQOL向上を
もたらす

治療と
患者側が望む生き方との
両立を目指した
患者・市民参画(PPI)



※画像をクリックすると動画が再生されます。

AMED-PPIインタビュー vol.1

医師と患者が
同じ目線で考える
「日常を取り戻す」ための医療

半月板損傷の
新たな治療方法導入に
向けた患者・市民参画(PPI)



※画像をクリックすると動画が再生されます。

事業名	脳科学研究戦略推進プログラム
課題名	主体的人生のための統合失調症リハビリ支援—当事者との共同創造co-productionによる実践ガイドライン策定
研究機関	国立大学法人 群馬大学、国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター
研究者	福田 正人 さん(群馬大学 大学院医学系研究科) 山口 創生 さん(国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所)
備考	インタビュー記事 PDF (2023年8月実施)

事業名	革新的がん医療実用化研究事業
課題名	急速進行性がん患者・家族と医師の共感的コミュニケーション促進のための統合支援プログラムの有用性を検証する無作為化比較試験:フォローアップ研究
研究機関	国立がん研究センター がん対策研究所
研究者	藤森 麻衣子 さん

事業名	医療分野研究成果展開事業 産学連携医療イノベーション創出プログラム
課題名	半月板損傷根治を目指す革新的治療技術の創生研究
研究機関	国立大学法人 広島大学、三洋化成工業株式会社
研究者	安達 伸生 さん(広島大学 大学院医系科学研究所) 川端 慎吾 さん(三洋化成工業株式会社)
備考	インタビュー記事 PDF (2023年1月実施)

市民と進める難病研究

慢性活動性EBウイルス感染症治療への道



事業名：難治性疾患実用化研究事業
課題名：慢性活動性EBウイルス感染症を対象としたJAK1/2阻害剤
ルキシソリチニブの医師主導治験
代表機関：学校法人 聖マリアンナ医科大学
※動画作成時：国立大学法人 東京医科歯科大学
研究代表：新井 文子 先生

市民と築く患者レジストリ

視覚聴覚二重障害を診る



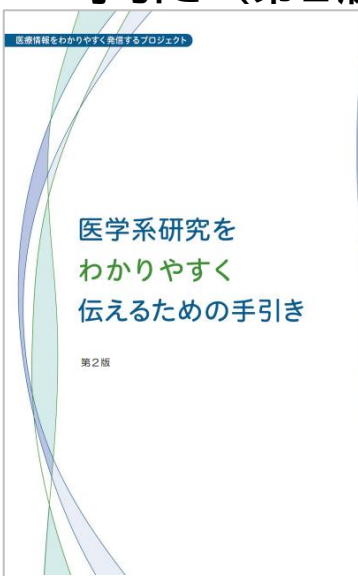
事業名：難治性疾患実用化研究事業
課題名：先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の原因となる難病の診療向上に向けた、疾患横断的な全国多施設 レジストリ研究
代表機関：独立行政法人国立病院機構東京医療センター
研究代表：松永 達雄 先生

取組2. 研究者—患者・市民間の共通言語の模索等

医療研究開発へのPPI普及に向けた、研究者—患者・市民間の共通言語の模索、患者の立場からの意見出し

- AMEDの研究開発へのPPIにおいて、患者・市民が意見を言うためには、医療の基本的なことを学び、共通言語を増やした上で、かつ、患者の立場を維持して意見を言うことが必要になる。
- 今は医療に関心がなくても、医療の基本的なことを知り、自分たち一般市民にも意見を言う場があるとわかるとPPIは更に進むと思われる。多くの国民が学ぶことができる場作りが必要である。

医学系研究をわかりやすく伝えるための 手引き（第2版）（2023年3月発行）



ポイント

- ✓ 前年度作成した手引きを使ったワークショップや一般の人との意見交換、手引きから派生した動画、一般向けパンフレットを作成。
- ✓ 研究班ウェブサイトでは、「**理解しにくい医学研究用語**」を公開。同じ用語でも一般で使われている意味とは違う用語があり、誤解を招く可能性がある用語の追加調査を実施。あわせて、注釈例や補足説明例を追加。
- ✓ **医学系研究者と一般の人のミス・コミュニケーションの低減が目標**

ゲノム医療実現推進プラットフォーム・社会共創推進領域研究班 「みんなでつくるゲノムのこと」



ポイント

- ✓ **ゲノム医療・研究を考える「第1回ラウンドテーブル」を本年3/16に開催。**患者・市民、研究、医療、産業、報道等、さまざまな立場から約30名が参加。ゲノム医療・研究の現状と課題や、それに関連したELSIについて、小グループで活発な意見交換を実施。年度毎に2～3回のペースで実施予定。
- ✓ **本年4/23に「DNAの日2023：ゲノムとわたし、あなたとゲノム」を開催。**現地参加43名、オンライン参加116名と盛況。

制作：AMED研究開発推進ネットワーク事業
「「医学系研究の成果をわかりやすく 発信する手引き」の普及と改善の提案」
（代表：埼玉県立大学・山田 恵子准教授）

AMEDゲノム医療実現バイオバンク活用プログラム
「ゲノム医療・研究推進社会に向けた試料・情報の利活用とPPI施策に関する研究開発」
（代表：東京医科歯科大学・吉田雅幸教授）

取組3. 重要性等を知ってもらう機会の提供



市民全体に医療研究開発に対するさまざまな考え方や重要性を知ってもらう機会の提供

- 研究者の方とさまざまな患者会が対面で交流できるような場をいただければ、どのようなニーズがあるのかということも（患者会から）研究者の皆さまにお伝えできる。
- 「社会共創」推進の1番の目的は、市民全体に医療研究開発に対する様々な考え方や重要性等を知っていただくことである。広く一般的にある病気の方々には興味を持ってもらいたい。市民の方に伝わるよう、様々な方法を検討いただきたい。

AMED社会共創EXPOの開催

講演等による 情報発信

第1回（2023年2月18日(土)）

第2回（2023年12月9日(土)）

AMED社会共創EXPO
～社会と共に創る明日の医療～
2023年2月18日(土) 10:30～16:30

医療分野の研究開発を社会と共に進めるにはどうしたらいいか——実行会議における議論に基づき、AMED社会共創EXPOを開催します。
「社会と共に創る明日の医療」をテーマとして2つの企画を実施します。
現代におけるさまざまなコミュニケーションシーンや、医療の未来における「もつくり」をどう表現するか、コロナ禍で気づいた新たなアイデア等、発信者や参加者と対話を促進し、「社会と共に創る」と「社会と共に創る」をつなぎます。会場での参加を心よりお待ちしております。

会場 日本科学未来館7階 イベントホール
会場所在地 東京都江東区豊洲2-3-6
開催方法 会場とオンラインのハイブリット式(会場120名程度)
参加費 無料 ※日本科学未来館の観覧券、特別観覧券、特別観覧券のいずれかが必要です。

参加ご希望の方は、以下のリンクよりお申し込みください。
お申し込みフォーム <https://ksb.jp/ksbinfo/inside534>

協賛: 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
協賛: 科学技術振興機構
実行委員会: AMED社会共創EXPO運営事務局
株式会社メディア・エス E-mail: amed-expo@meia-es.com TEL: 06-104-7192

AMED社会共創EXPO
AIが支える新しい医療
～より良いコミュニケーションのために～

12月9日(土) 10:30～16:30
2023年
東京国際フォーラム ホールD5 東京都千代田区丸の内3-5-1

会場とオンラインのハイブリット式(会場110名程度 | オンライン500名程度)
参加費 無料
申し込み方法: 以下のリンクよりお申し込みください。
https://www.amed.go.jp/news/amed/2023/1209_amedexpo.html

お問い合わせ: AMED社会共創EXPO運営事務局 TEL: 03-102-1000-1400
TEL: 03-102-1000-4000 E-mail: amed-expo@meia-es.com

協賛: 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
協賛: 科学技術振興機構
実行委員会: AMED社会共創EXPO運営事務局
株式会社メディア・エス E-mail: amed-expo@meia-es.com TEL: 06-104-7192

ポイント

- ✓ 研究者や患者経験者、AMED職員で構成される「実行会議」を立ち上げ、JST-RISTEXと連携し、社会と広く対話や協働を行う「AMED社会共創EXPO」を開催
- ✓ 第1回のアンケートでは「画期的なイベント」、「色々な方面の方々の取組や一緒に変えていくことの大切さ等を感じられた。自分自身も何か取り組んでみたい」等の数多くの意見があった。

- ✓ 前回（R4.12.15）のアドバイザリーボード以降、AMEDによる講演・情報提供等を15回実施（予定を含む。）。
- ✓ このうち、患者・市民等一般にも公開されているものは7回。（次頁参照）

第1回社会共創EXPOの様子



(参考) AMEDによる講演等対応実績 (前回のアドバイザリーボード (R4.12.15) 以降)



時期	講演・情報提供等 (★：患者・市民等一般にも公開されているもの)
2023/3/8	金沢大学 先端科学・社会共創推進機構 「医療研究開発におけるELSIを考える：医療の「社会共創」に向けて」
2023/3/15	兵庫医科大学 臨床研究支援センター 「医療研究開発における患者・市民参画：AMEDにおける取組」
2023/3/19	★順天堂大学免疫治療研究センター 令和4年度市民公開講座「医療研究開発における患者・市民参画：AMEDにおける取組」
2023/4/21	★第31回日本医学会総会 2023 東京 会頭特別企画2「医療と臨床研究における患者・市民参画（PPI）」
2023/6/2	(独)国立病院機構 臨床研究センター長・臨床研究部長研修 「患者・市民参画：基本的考え方と取組事例、推進上の課題」
2023/6/15	レギュラトリーサイエンス財団 エキスパート研修会 「医療研究開発への患者・市民参画」
2023/9/16	★第23回 CRCと臨床試験のあり方を考える会議 2023 in 岡山 「患者・市民参画（PPI）の意義と課題 ―医療研究開発を社会と共に創り、社会を共に創るために―」
2023/10/2 ～2024/2/29	厚生労働省 臨床研究総合促進事業 臨床研究・治験従事者等に対する研修プログラム・上級者臨床研究コーディネーター 養成研修 「臨床試験の意義・創薬プロセスについての市民啓発活動」
2023/10/6	LINK-J：政策キーパーソンと語ろう！「心は若手」のみなさま大集合 「AMEDにおける社会共創の取組」
2023/10/19	★第61回日本癌治療学会学術集会 「AMED革新的がん医療実用化研究事業におけるPPIの取組状況」
2023/11/7	★20th DIA Japan Annual Meeting 2023 「What is “Social Co-Creation” for Society 5.0?」
2023/11/11	なんでやねん！大阪がん医療セミナー2023：医療従事者が知っておくべき「患者・市民が築く・変えるがん医療」 「がん医療研究への患者・市民参画（PPI）」
2023/11/12	★2023年世界HTLVデー記念講演会 HTLV-1対策における社会共創 ～研究者と手を携えて～ 「研究への患者・市民参画（PPI）とは：医療研究開発の社会共創に向けて」
2023/11/27	順天堂大学医学部附属順天堂医院 臨床研究・治験センター 第1回患者・市民参画（PPI）セミナー 医療研究開発における「社会共創」：研究への患者・市民参画（PPI）を中心に
2023/12/8 (R6.1.0A予定)	★ラジオNIKKEI第1「大人のラヂオ」（パーソナリティ：米澤 敦子 氏（NPO法人「東京肝臓友の会」事務局長））

取組4. 社会共創の更なる推進

「社会共創」（ELSI・PPI、ダイバーシティ推進、SDGs等）の更なる推進

- 医療を進めていく上では、正確な医療の情報が医療人と医療を利用する患者様に伝わることは非常に重要であるため、ぜひPPIの推進を大切にしていきたい。また、SDGsも重要な課題であるため、ぜひ取組を推進していきたい。

ポイント

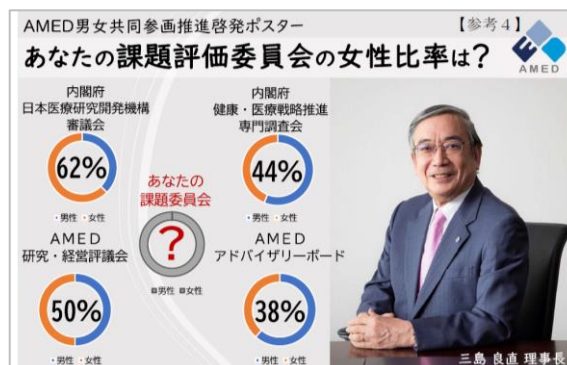
- ✓ 我が国における医療分野の研究開発とその環境整備の中核的な役割の担う資金配分機関として、**機構事業における「研究開発におけるダイバーシティ」及び「社会共創」の推進に係る取組方針を策定**
- ✓ **機構ウェブサイト及び令和6年度の公募要領にそれぞれの取組推進に関する理事長メッセージを掲載**
- ✓ 以下の取組も踏まえ、引き続き今後の対応について検討

ELSI・PPIの推進

- ・ 取組1～3（前述）の推進
- ・ **令和6年度以降の事業の公募に使用する研究開発提案書ひな形に、社会共創に関する取組記載欄を常設（記載事項）**
 - ・ 研究開発及びその成果の社会実装に至るまでのELSIの把握状況
 - ・ PPIの取組状況

ダイバーシティの推進

- ・ 課題評価委員への女性登用の推進



SDGsの推進

- ・ AMED事業におけるSDGs達成に向けた取組事例の紹介（機構ウェブサイト）
- ・ 毎年度1事例紹介（引き続き実施）
- ・ 機構ウェブサイト：
<https://www.amed.go.jp/socialcreation/SDGs.html>

(参考)社会共創の推進に係る取組方針

理事長メッセージ掲載（機構ウェブサイト：https://www.amed.go.jp/socialcocreation/about_scc.html）

社会共創の推進に係る取組

AMED事業である研究開発は、いずれも我が国における健康・医療に関する課題の解決に資するものであり、社会との対話や協働を通じて、国民の安全・安心を確保しつつ、社会から理解・信頼を得ながら実用化を進めることが必要です。研究開発成果を一刻も早く実用化し、患者・家族の元にお届けし、社会の発展に貢献するため、AMED事業においては、研究開発の初期段階から倫理的・法的・社会的課題（ELSI：Ethical Legal and Social Issues）を把握・検討し、その対処方策を研究計画等に組み込んだ研究開発を推進します。

また、医療分野の研究開発の実施に当たっては、医療研究開発の現場がより良いものとなり、その結果として研究成果が社会により良い形で普及・還元されることに寄与することが求められます。そのためには、医療研究開発の意義やそれが社会にもたらす恩恵等を積極的に社会と共有すること、研究開発の立案段階から患者・市民参画（PPI：Patient and Public Involvement）によって社会のニーズに応えるような研究開発成果を創出すること、対等なパートナーシップに基づく研究者と患者・市民の協働が広がることが重要です。このような観点から、患者一人ひとりに寄り添い、その3つのLIFE（生命・生活・人生）を支えながら、医療分野の研究成果を一刻も早く実用化し、患者・家族の元にお届けするという使命を果たすため、AMED事業においては、医療研究開発プロセスにおいて、研究者が患者・市民の知見を取り入れるPPIの取組を推進します。



研究開発におけるダイバーシティ推進に係る取組

「ダイバーシティ（多様性）」はイノベーションの源泉であり、一人ひとりの幸せや創造的な価値を実現するために必要不可欠な要素です。AMEDは健康・医療に関する研究開発に参画するすべての分野と役割におけるダイバーシティを重要視しつつ、最新の医薬品と医療技術を必要としている我が国並びに世界の人々に一刻も早く届けることをミッションとしています。すなわち、国籍、性別、年齢、経歴等に由来する多様な専門性や価値観を有する人々の参画を奨励し、その能力と見識を十分に発揮できる環境の醸成に努めることでミッション達成を目指します。

健康・医療分野の研究開発におけるダイバーシティに係る重要な取組の一つは女性研究者のさらなる活躍を可能とする環境作りです。我が国の様々な研究分野において、男女共同参画における女性研究者の比率は欧米諸国の状況に比較して低く、AMED事業においては優秀な女性研究者の積極的な登用・参画を促進するとともに、研究を遂行する過程における出産・育児・介護等のライフイベントを考慮した研究実施を支援していきます。また、AMED事業においては、支援する研究を適切に進めつつ、研究者に過大な負担がかからない課題評価や課題管理に従事する専門家についても多様な人材の登用を促進して研究資金配分機関として機能の高度化を図っていきます。

令和6年度以降の事業の公募に使用する研究開発提案書のひな形に、社会共創に関する取組記載欄を常設

- 医療分野の研究開発において重要な視点であるため、AMED事業の研究開発課題において記載を求めるようにした。
- 同時に研究開発計画書、実績報告書においても、社会共創に関する取組記載を求める予定。

本研究開発課題を実施する上で特に考慮すべき事項等

研究開発提案書

■以下の項目は、医療分野の研究開発において重要な視点であるため、AMED事業の研究開発課題において記載を求めるものです。なお、今後のAMED事業運営に資する研究動向の分析等に利用するとともに、研究開発課題が特定されない形で分析結果を公開する場合があります。

(1) 研究開発成果の実用化は、人類の福祉向上に資する一方、関係法令・倫理規範への適合や社会への受容が不可欠です。そのため、可能な限り早い段階から研究開発に関する倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)を把握し、社会との間で論点の共有や対話を行うこと等により、研究開発からその成果の社会実装までを円滑に進めることが可能になると考えています。

- ① 本研究開発課題において、研究開発及びその成果の社会実装に至るまでの倫理的・法的・社会的側面からの懸念やリスクについて記載してください。
- ② 本研究開発課題において、研究開発の質向上と社会のニーズを満たす成果創出のため、患者・市民との対話や知見を取り入れるための取組・方針等について記載してください。

①倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)への対応について

記載欄

以下のa)～c)のいずれかの口にチェックを入れるとともに、a)又はb)については、その内容を簡潔に記載してください(bは検討中の内容で差し支えありません。)。

- a) ☐ 倫理的・法的・社会的側面からのリスクを把握している。
- b) ☐ 倫理的・法的・社会的側面からのリスクを整理中である。
- c) ☐ 倫理的・法的・社会的側面からのリスクを把握・整理していない。

②研究への患者・市民参画(PPI: Patient and Public Involvement)の取組について

以下のa)～c)のいずれかの口にチェックを入れるとともに、a)又はb)については、その内容を簡潔に記載してください(bは検討中の内容で差し支えありません。)。

- a) ☐ 患者・市民との対話や知見を取り入れるための取組を行っている。
- b) ☐ 患者・市民との対話や知見を取り入れるための取組について検討している。
- c) ☐ 患者・市民との対話や知見を取り入れるための取組・検討を行っていない。